

令和4年度 自己評価表【目標】

鳥取県立緑風高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成	今年度の 重点目標	1 基本的な生活習慣の定着を促す。 2 生徒が主体的の取り組み授業づくり、深い学びにつながる授業づくりに取り組む。 3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的な生活習慣の定着	生活の自律	○学校では時間を守ることができる生徒が増えているが、決められた時間に行動できない生徒も、まだ若干数いる。 ○教室等の環境整備は、普段の清掃などによりきれいに保たれている。 ○食堂のゴミ出しの状況等をみると、ごみの分別等環境配慮行動に対する意識は、まだ十分とは言えない。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身に付きつつある。 ○就寝時刻が0時以降の生徒が72％。一方、約50％の生徒がスマホやゲーム等を一日5時間以上使用している。 ○むし歯の治療率＝24％と低い状況にある。 (全校/R3) ○約30％の生徒が「週1回以上、歯をみがかないで寝ることがある」	○規則正しい生活を送ることができている。 ○基本的な生活習慣(時間・挨拶・マナー等)について考え、行動できている。 ○環境美化に関心を持ち、身の周りの整理・整頓・清掃ができている。 ○自分自身の健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。 ○むし歯の治療率が向上する。	○積極的な日常の声かけや挨拶、丁寧な面談を通してコミュニケーションの具体例(対人関係における挨拶や対話)を提示し、習慣づけに努める。 ○緑チャレ12と連動し、基本的な生活習慣の指導(5月・11月)を行う。 ○身の周り整理、整頓、ごみの分別の徹底を指導し、環境美化に努める。 ○ライフスタイル調査による生活実態の的確な把握と分析を行う。 ○むし歯の治療について、担任をはじめとする全教職員で個別指導や声かけを繰り返し行う。			
	個に応じた学力の向上	○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合は88.1％、「教職員の丁寧な対応」については92.7％と高い数値であった。 ○課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒もいる。 ○「まなトレ」の取り組みは、年次によって様々で、低年次については検討を要するが、互いに教えあう姿も見られた。また、学び直しや進路実現にも活用している。 ○昨年度の年間の単位修得率は定時制が69.1％、通信制は82.3％でどちらも目標以上であった。 ○多くの授業でICTを活用しているが、生徒のスキルの向上には至っていない。	○社会生活を営むために必要な基礎学力を身につけている。 ○上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を養成している。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は65％以上、通信制生徒の単位修得率は70％以上である。	○生徒個々の進路希望を把握し、課外指導や個々に合った模試を計画的に活用するよう、学年・部課程と連携し支援する。 ○公開授業を促進して、主体的な学びや対話的な活動や探究活動のきっかけにつながる内容を取り入れた授業の工夫・充実を図る。 ○「まなトレ」や課外指導により基礎学力の向上を図り、生徒が将来の生き方を見つめる一助となるように努める。 ○毎日の声掛けや面接週間、指名登校時に面談を行うとともに、教職員間の情報交換を頻繁に行い、生徒理解に努めて個別にきめ細かい指導を行う。 ○ICTのさらなる活用により、生徒の状況に応じた学習指導を行う。			
	生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業づくり	○資格取得を促し、「まなトレ」を活用して準備の学習を行っているが、受験する生徒は多くない。その中で、漢字能力検定や秘書技能検定や情報処理検定など、授業に関連して受験できるものや希望進路に関連する検定など、多様な検定などに挑戦した。 ○特別支援教育支援員のサポートにより、生徒が安心して授業に取り組めた。 ○「本校での高校生活に満足している」と回答した生徒の割合は、89％で目標以上の達成率であった。 ○外部講師による授業やガイダンス・体験活動は、生徒の意欲向上につながった。 ○進路に関する講演会、講習会などは生徒の進路意識を喚起する良い機会となっているが、意識の継続、具体的な行動にはなかなか繋がらない。	○勤労観・職業観が育ち、希望進路の実現に向け努力している。 ○各種資格試験、検定等の合格を目標に、積極的に学習に取り組んでいる。 ○各種資格試験、検定等を1人が1受験している。 ○「高校生活が全体的に満足している」と感じている生徒の割合が、75％以上が継続している。	○「勉強＋α」を推進する(α：資格取得等)。各種資格試験、検定の案内を行い、適性のある生徒に対して個別に受験を勧め、受験者には個別の支援を行うなどきめ細かい指導を行う。 ○生徒の実態や課題に即した外部講師による講演や、体験活動の推奨を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをととして、学習意欲の向上につなげる。 ○学生教育ボランティア(緑風ソシオ)による学習指導補助の充実を図り、学習意欲の向上につなげる。 ○低年次より将来について具体的に考える機会を増やす。			
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○生徒全員への声かけを日常とし、継続した担任による面談(3回以上)、SC(スクール・カウンセラー)面談などを実施し、生徒理解に役立てた。 ○SC・SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)連絡会(月1回)と各部課程・学年ごとの生徒情報交換を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては職員間で対応策について協議し、共通理解をはかり実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携をはかった。 ○昨年度は、「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が92.7％であり、目標値を上回った。	○発達課題に応じた具体的な現実的な支援を行い、生徒が自立へと努力している。 ○前年度に比べて不登校(年間30日以上欠席)であった生徒の人数が減少している。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答する生徒の割合75％以上が継続している。	○担任などによる個人面接や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかかわりを大切にした指導に努める。 ○全生徒に対し、担任等による面接を年間3回以上実施する。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月持ち、生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会などの体制を整え組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。			
	自立をめざす生徒指導	○多くの生徒が挨拶を心がけ、お互いを思いやって過ごす雰囲気醸成されている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとろうと心がけている」と回答した生徒の割合は90.3％であり、目標値を上回った。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、就労への意識も高めている。 ○日常生活における小さな目標を記した「チャレンジシート」は、自分の改善点を意識させ、その改善に向け一歩を踏み出す気持ちを喚起している。 ○様々な進路学習の機会を捉え、勤労観、職業観の育成に努めているが、進路目標が明確な生徒は多くはない。 ○日常生活における「スモールチャレンジ」への取り組みは十分でない。	○社会で通用する行動・ルールやマナーの向上の指導をととして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を育成し進路目標が明確になっている。 ○身近にある差別やいじめに気づき、その解消に向けて取り組んでいる。 ○通級指導などの個別指導において、自分のことを理解し自分らしく生きていけるような力を身につけている。 ○生徒は「チャレンジシート」を活用し、自分の課題を意識し改善しようと努力している。	○生徒一人ひとりとの関わりを大切にした声かけや挨拶を交わし、他者を思いやるような言動ができるよう努める。 ○規範意識が身につくよう、ルールやマナーについて適宜指導する。 ○進路ガイダンス、進路LHR、CA面談などで自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○生徒個々に応じた校内の支援体制を確立するとともに、外部機関と連携しながら進路実現に向けた機会をつくる。 ○人権教育LHR・人権学習講演会等を充実させることにより、人権意識を高める。また、いじめアンケートを活用し未然防止、早期発見に努める。 ○通級指導や就労体験等をととして、社会生活を送る上で必要な力を育成する。 ○CA面談、緑チャレ12、進路日より等でスモールチャレンジへの意識喚起を行う。			
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○「TEASⅡ」(鳥取県版環境管理システム)の環境改善目標は概ね達成できている。 ○緑風祭や球技大会など、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○定通総体、県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で好成績を収めた。男子バレーボール部は、全国大会に出場した。 ○アルバイト経験を通し社会性を身につけていく生徒が多い。インターンシップに参加した生徒は、自信を得たり、自分の課題を認識するなど一定の成果を得ている。	○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・SDGs(持続可能な開発目標)に関する意識が高まっている。 ○授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等にそれぞれの生徒が積極的に関わっている。 ○アルバイトやインターンシップなどの社会体験に取り組み、コミュニケーション能力が向上したり、自信を持つ生徒が増えている。	○「TEASⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員および生徒が率先して行う。 ○学校行事や「緑チャレ12」をととして、部活動、生徒会の活性化をはかる。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○学年や教育相談部と連携して情報を共有しながら、生徒個々の状況に合わせ、アルバイト、インターンシップのいずれかを原則2年次終了までに体験するよう推進する。			
	集団への適応力の育成	○生徒面接前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取り入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○問題行動等に対し、担任のみにならず、学年団、生活指導部、教育相談部、養護教諭、SC、SSWが連携し、保護者連絡をこまめに行い、連携を密にしながら生徒指導に取り組んだ結果、「安心して通える学校だ」と回答した生徒の割合が90.2％だった。 ○SCによる1年生、2年生対象の定期面接を実施し、またSSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。	○年2回実施するhyper-QUにおいて、強い孤立感や孤独感が示唆されている生徒の数に顕著な改善がみられる。 ○「鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と回答する生徒の割合75％以上が継続している。	○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。 ○緑風ハートフルなどの活動をととして他者とのかわり合い、人間関係づくりを促す。 ○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化し、生徒の人間関係作りを支援する。 ○転編入生や、長期欠席の生徒についてはできるだけ早い段階で面接を実施する。			
業務改善の取組	時間外勤務時間の縮減	○毎月開催している衛生委員会での結果を報告し、校内掲示板に掲載し報告した。 ○時間外業務時間月45時間以上の者は0人。 ○職員室のレイアウトの変更を行い、講師の机を確保した。 ○会議は1時間以内に終わるよう取り組んだ。 ○学校行事等により長時間勤務となる時期がある。	○業務の削減、簡素化、見直しを行い、業務が効率的に行われた。 ○担当内での情報が共有され、年次有給休暇を取得しやすい環境となる。	○衛生委員会での結果を校内掲示板で全職員に周知する。 ○管理職は、日ごろから教職員の業務の状況と、給与勤怠システムによる勤務状況を把握し、時間外業務の多い職員には声かけを行う。 ○会議の効率化、業務の精選を意識した行動を心がける。 ○長期休業中、調査中の年休取得の呼びかけを行う。。			

※ 緑風ハートフル:校内外での人間関係づくりのための体験活動

※ まなトレ:高校までの学習内容の学び直しのための教材

※ 緑風チャレ:緑風チャレンジ12(強化月間)

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)